

大名美恵子です

東海村村松 2401-2 電話・FAX 284-0761

E-mail toukai@oona-mieko.info

「よい子」を振る舞うモンスター小学生が急増しているワケ

白梅学園大学増田修治教授に聞く フリーライター 岡田光雄 2020/10/18



親が与える条件付きの愛と自己責任論がいじめを加速

しかし、児童の問題の原因を学校教育だけに求めてしまうのも早計だ。子どもの人格形成には「親」からの影響が大きく関係している。

『「よい子」を振る舞う児童は自己肯定感が低いという傾向があります。たとえば、冒頭で紹介した首都圏の小学校（特別支援学級のいじめのケース）は、地域柄会社役員や弁護士、医師などいわゆるインテリ層の子どもが多く通っていました。そういう家庭環境で育った児童は、親御さんから常に『勉強しなさい』と言われ続け、『“勉強ができる”〇〇ちゃんだから好き』という条件付きの愛を受けて育てられるケースも多い。しかし、子どもにとってその愛は、『もし勉強ができなくなったら親から嫌われてしまう…』という見捨てられ不安をもたらし、自己肯定感を低下させてしまう。そうした自己肯定感の低さを満たすために、自分より下の人間を見つけていじめようとしたり、自分がいじめられないように過剰に自己防衛したりするのだと考えられます』。

前出のアンケート結果によれば、「学校でいじめが広がっていると思うか？」という問いに「そう思う」「ややそう思う」と応えた教員は、1998年は7.9%だったが、2019年は17.7%と、10ポイント近くも増加しているのだ。

また、一部の親が子どもに押し付ける自己責任論の問題もある。

「いまの児童たちの間では自己責任論が広まっているように思えます。たとえば、勉強ができないのは自己責任、自分以外の誰かがいじめられるのは自己責任、ハンディを背負っているのも自己責任というような考え方です。そういう子は、家庭でも親御さんから『勉強を頑張らない子は社会で落ちこぼれる』『いまの頑張り次第で今後の人生が決まっていく』など自己責任論を教育されているようです。中には、そうした自己責任論を主張する一方で、他責思考というダブルスタンダードの親御さんもいます。前出の市立小学校の主犯児童の親御さんに『お子さんが学校の4階のトイレから物を落としまして…』と事件の話をご報告したときも、『悪いのはうちの子だけですか？』と他責にしようとする発言もありました」。(つづく)

こんなことでいいの？！

「**村立保育所、幼稚園等に関する再編整備基本計画**」

策定時(2018年4月)には、**パブリックコメント**を行ったが、

今回の大幅見直しは、村中枢部のみで決定した！

基本計画を策定する際には、他の計画策定時同様にパブリックコメントを行いました。

今回の計画見直し案は、基本計画からはまるで想定できないような大幅見直しでしたが、住民の意見はまるで聞くことなく、村中枢部のみで判断(7/6)して、庁議(9/11)に付議、決定しました。

「**村中枢部のみ**で判断」をした場とは、7月6日に行われた「再編整備基本計画」の見直しについて協議、という場で、恒常的に設置された場ではなく突如の協議の場です。この日の議事録を開示請求して読みましたが、話し合い参加者(発言者)は、村長、副村長、教育長、政策統括官、企画総務部長、教育部長、福祉部長、学校教育指導室長、子育て支援課長、企画経営課長でした。東海村行政の良心はどこに行ったの？と思わず聞きたくなるやり取りです。

もちろんこれ以外にもまずはじめの福祉部内での協議、教育委員会や総合教育会議等での執行部からの報告にもとづいた話し合いなど行われていますが、なぜ、幼稚園関係者およびこれから幼稚園に入ろうとしている未就園児の保護者や地域の方々の声は、聞こえなかったのか。権力をかざした横暴さが感じられて仕方ありません。

現在村は、村松幼稚園1園にした際の課題抽出と対応について話し合いを始めましたが、この段階で保護者などに「意見を出してほしい」と声をかけられても、強要と従属の関係のごときです。

これほどの大幅見直しが必要と感じた時には、村はあわてずできるだけ関係する多くの方々と、時間をかけての協議により、合意のもと見直しの実施へと移るべきでした。